

## 昭和の南海地震体験談

氏名:伊藤 博(いとう ひろし)

生年月日:昭和8年7月7日

地震を体験した場所:由良町・自宅寝室

当時の家族状況:父、母、祖母、弟・妹が4人



### 1) 地震発生時の状況

当時13歳で中学1年生だった。自宅寝室で就寝中、大きな揺れで目が覚めた。タンスの引き出しの取手がカチカチ鳴っていて、立ち上がれない程の横揺れが長い時間続いた。どうすることもできず、揺れが収まるまで布団の中にいた。

### 2) 津波襲来時の状況

揺れが収まった後に、父が「こんな地震が来たら津波が来るかわからん」と言ったので、自宅下の海を見に行った。学校でも「稲むらの火」を習っていたので、地震＝津波の連想はできた。昔から津波が来る前は潮が引く、と言われていたので、同じように20人程が海の様子を見に来ていた。20～25分ぐらい様子を見ていたが潮が引かず、これといった変化も無かった。その場にいた大人達も、「潮、引かなんだら津波も来ないで」と言って、それぞれ家に帰って行った。自宅に戻り父親に「潮、引いてないで」と言うと、「ほな、もう大丈夫やな」と答え、また寝ようと布団に入った。それから15分も経たないうちに「津波やー！」と下の海の方から叫び声が聞こえた。すぐに起き上がり、家族で山に避難した。夜が明ける前の暗い時間帯だったので、海の様子は分からなかった。時間が経ち、明るくなってからは、水位が上がったり下がったりするのが見えた。もう一度寝た為、避難するのが遅れたが、幸いにも山が近かったので、濡れずに避難できた。他の人達も同様に寝た為避難が遅れ、濡れながら上って来た人もいて、寒いというのを見かねて、父は自宅の焚き物で焚き火をしてあげた。1年分の焚き物を1日で使った。後で聞いた話だが、逃げ遅れた老人は布団の中で横になったまま、部屋の中で浮き沈みをしていたそうだ。昔は床板を打ち付けていなかったので、畳ごと板に持ち上げられ、上下したという。船で流された人もいたが、沖にいた船に助けられたそうだ。

### 3) 家族の行動・被害

幸い高台に自宅があった為、浸水しなかった。地震の被害も受けず、家族全員が無事だった。

### 4) 集落・周囲の被害

当時は子供だったので分からなかったが、後から聞くと網代地区だけで19人が亡くなった。

そのうち親子は避難場所を決めていなかったの  
で行き違い、親が来ないので迎えに行き、子供  
がまだ来ないので迎えに行って2人とも亡くなっ  
たそうだ。由良川の近くの民家が2軒流された。  
横浜地区では停泊していた機帆船が浮き上がり、  
陸に乗り上げ、周辺の家屋を壊した二次災害も  
あった。近所では床下浸水をしていた。もっと低い  
土地の家では軒ぎりぎりまで浸水した。



#### 5) 地震・津波後の生活

被災しなかったので生活に変化は無かった。中学校は無事だったので3学期から普通に始  
まった。ちょうど冬休みに入ったところだった。両親と一緒に片付けの手伝いに行った。ヘドロ  
の汚れを落とすのが大変だった。地震前は風も吹かない暖かい良い天気が続く、大人達  
が「今年なんかおかしいな」と言っていた。地震以降、余震が2年程続き、慣れてしまうほどだ  
った。

#### 6) 次の災害への備え

年に1、2回行われている訓練に参加し、いざという時に備えている。地区で避難場所を決  
めたり、昔の話を聞いたりしている。自宅の土地が少し高台にあるので安心な方だ。